



attack on titan

Eren / Levi

Unofficial

book06

after

R18

知らない温度で
俺を呼ぶ声

肌を打つ汗

ぼやけた視界
一面に広がる色

この状況は
一体――

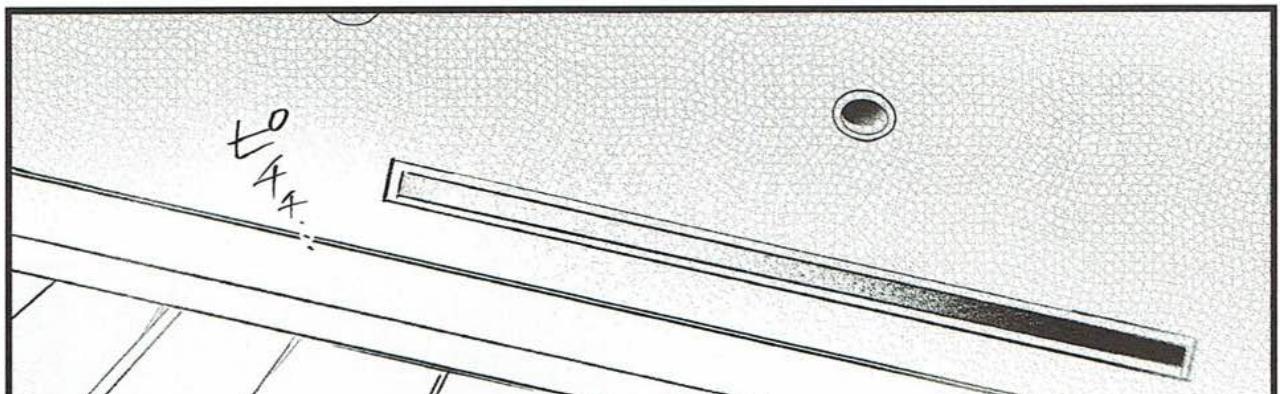
出る、ツ…!

7日目 の犯行

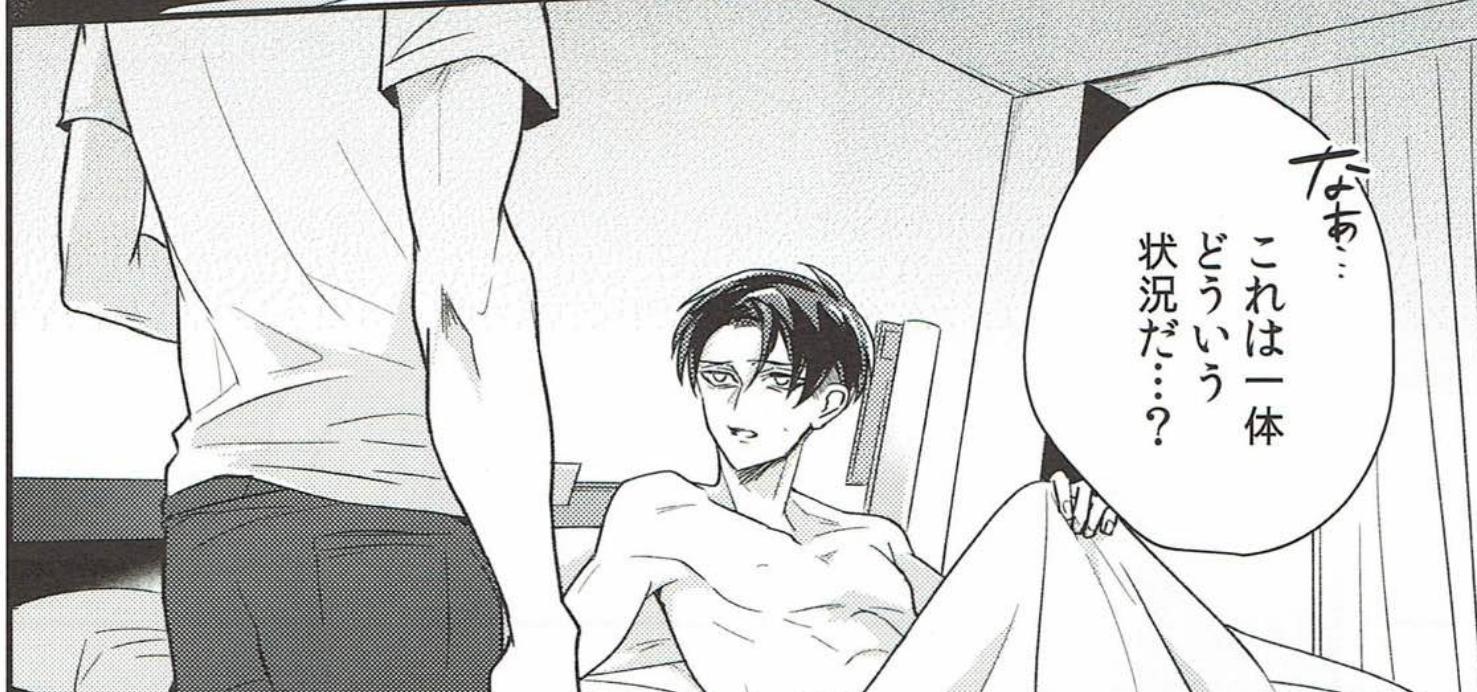
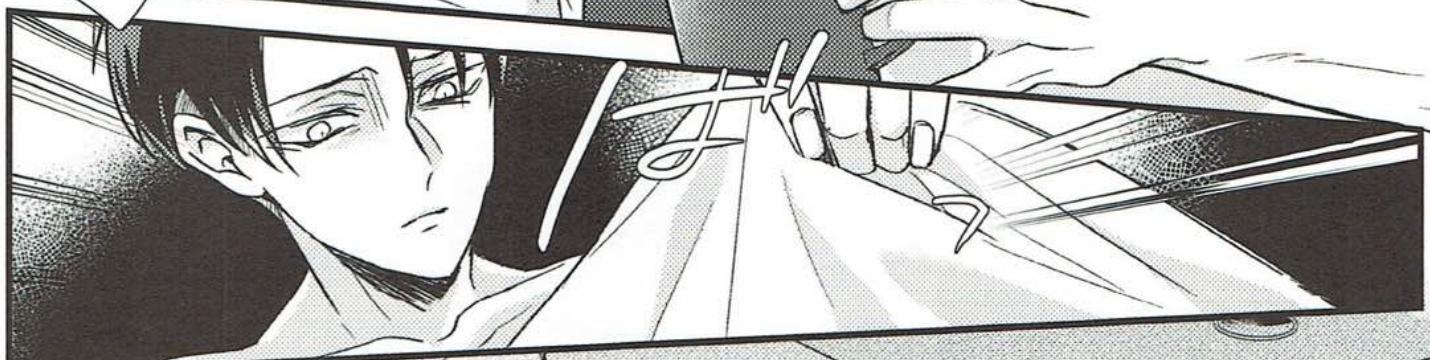
[introduction]

転生／記憶なし／軟禁

こちらは前編となり
本作のみでは未完です
あらかじめご了承ください







すみません

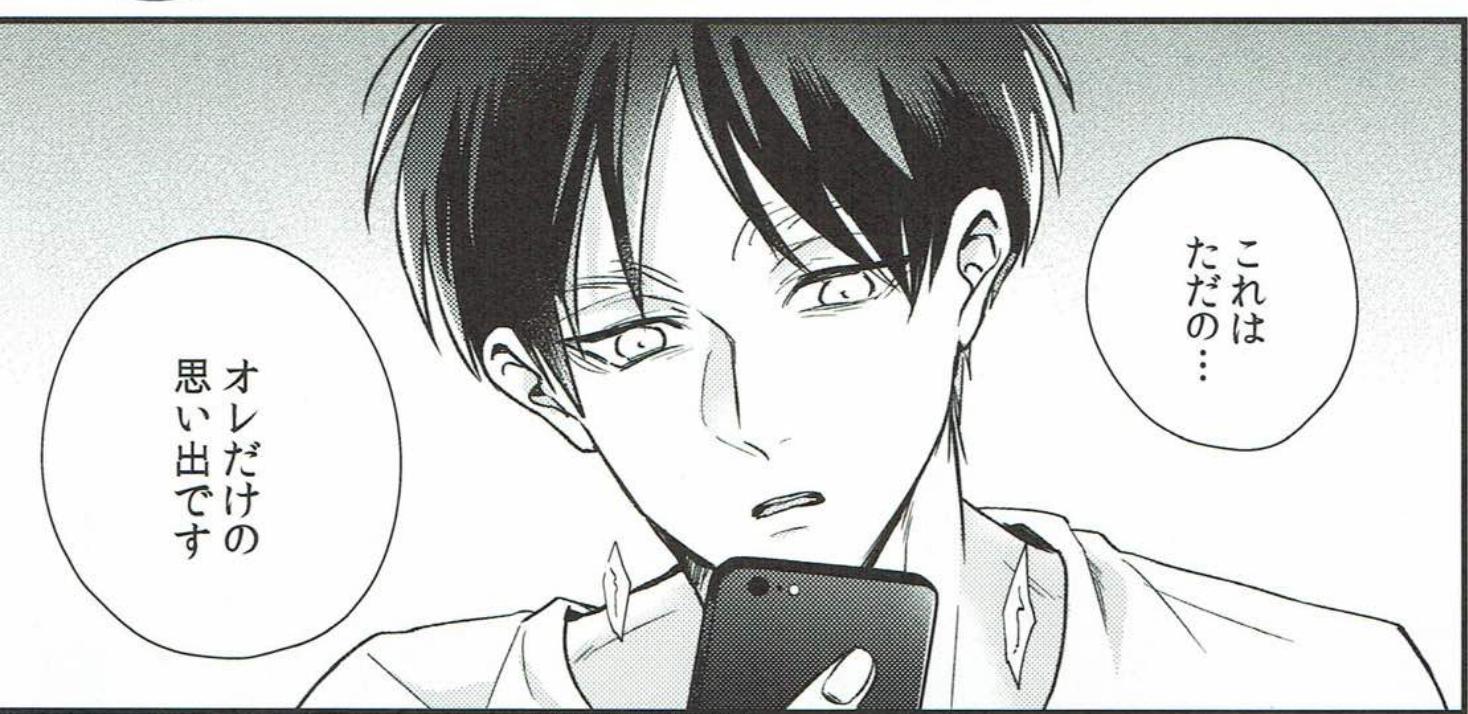
加減がよく
わからなくて

中々起きなかつたん
でさすがにちよつと
焦りました





どこに駆け
込もうが止
めません



俺達は昨日
初めて会った
ばかりのはずだ

それなのに
この周到に用意
された状況

こいつは誰にでも
こんなことをする
奴なのか…？

…いや
もしくは

俺は前にお前と
どこかで会つた
ことでもあんのか

…なあ

オレが
一方的に、
ですよ

…いえ

それから行動範囲
割り出して

それで昨日
あの店に。
偶然を装つて

電車であなたを
見かけて

たぶん
一目ぼれって
やつです

春ごろ…
だつたかな



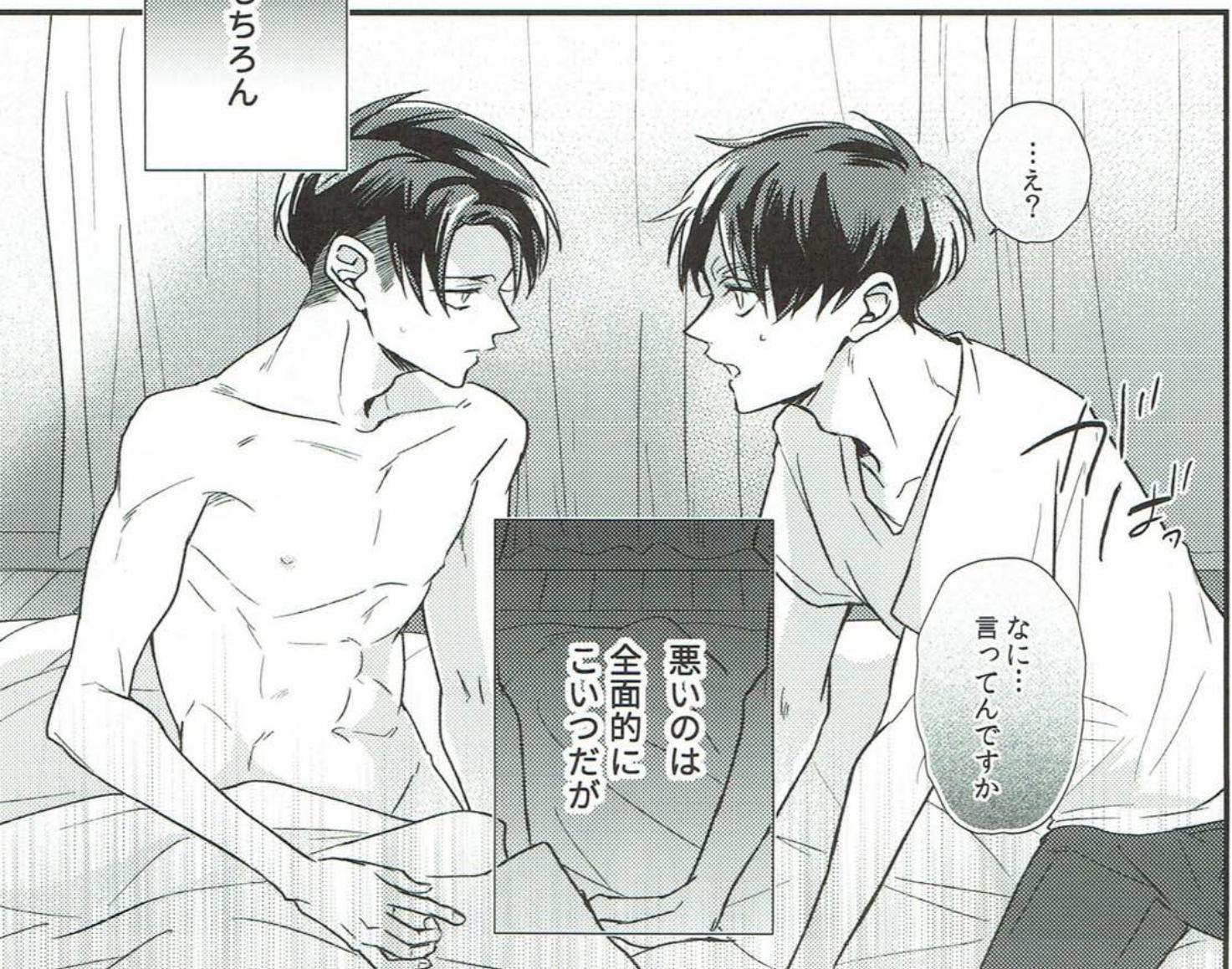


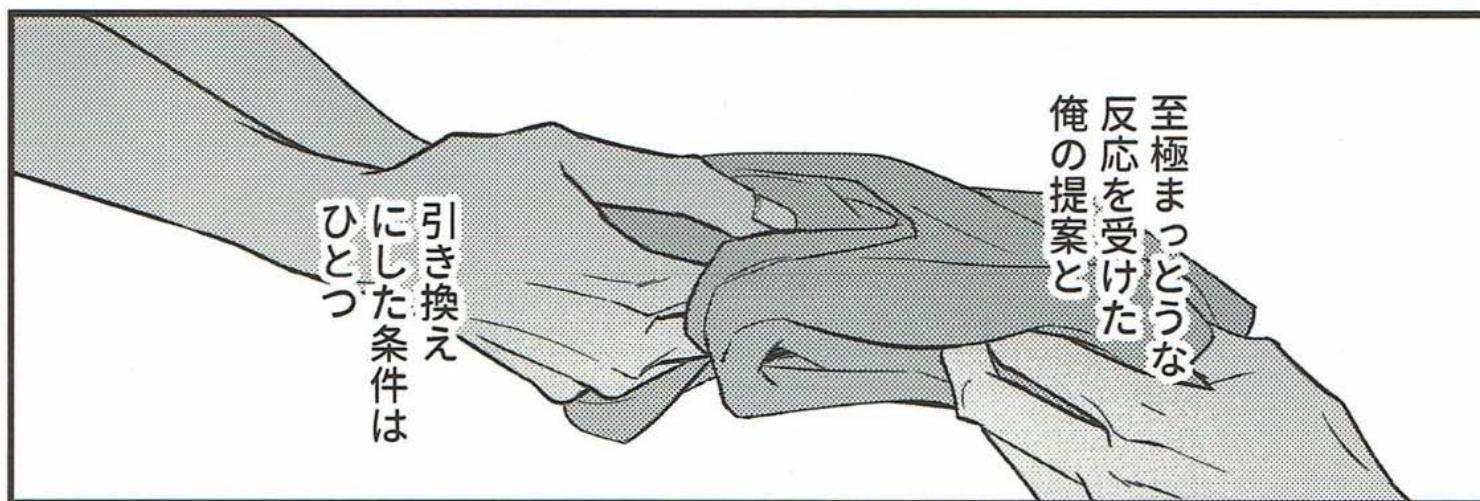


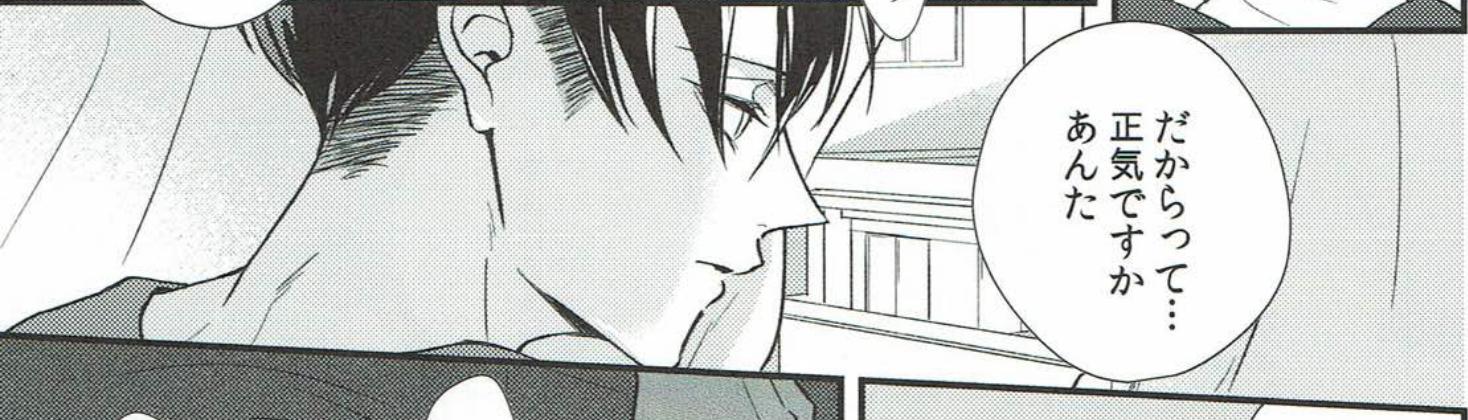


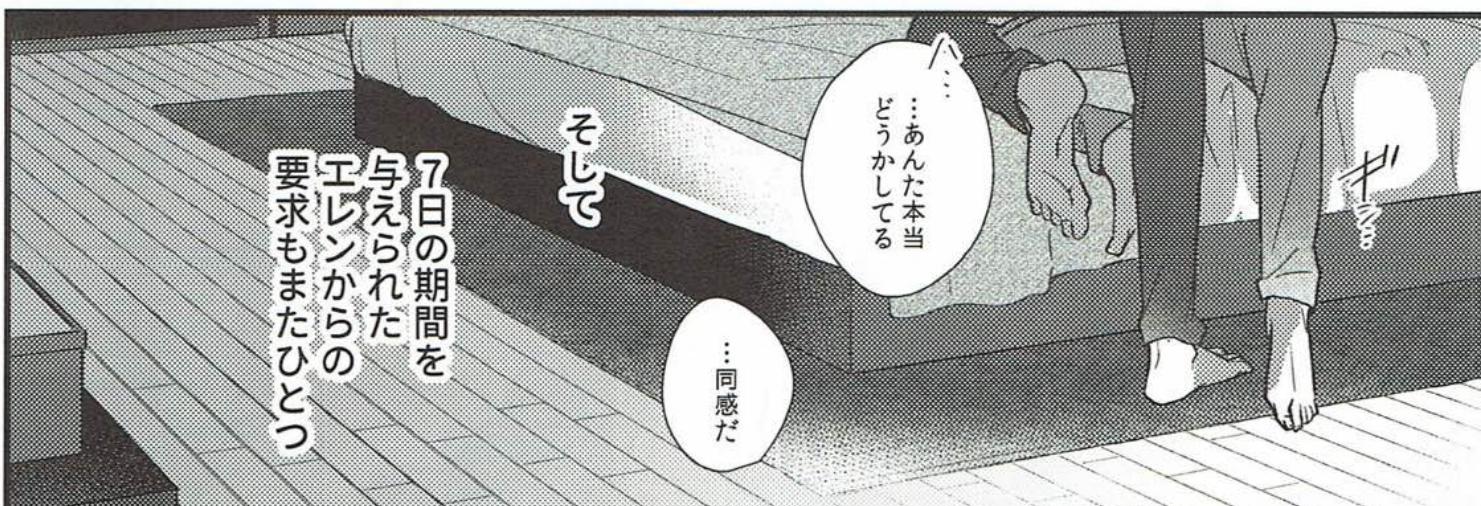


名前しか知らない
この不可解な男に
何故か情が
湧いてしまった





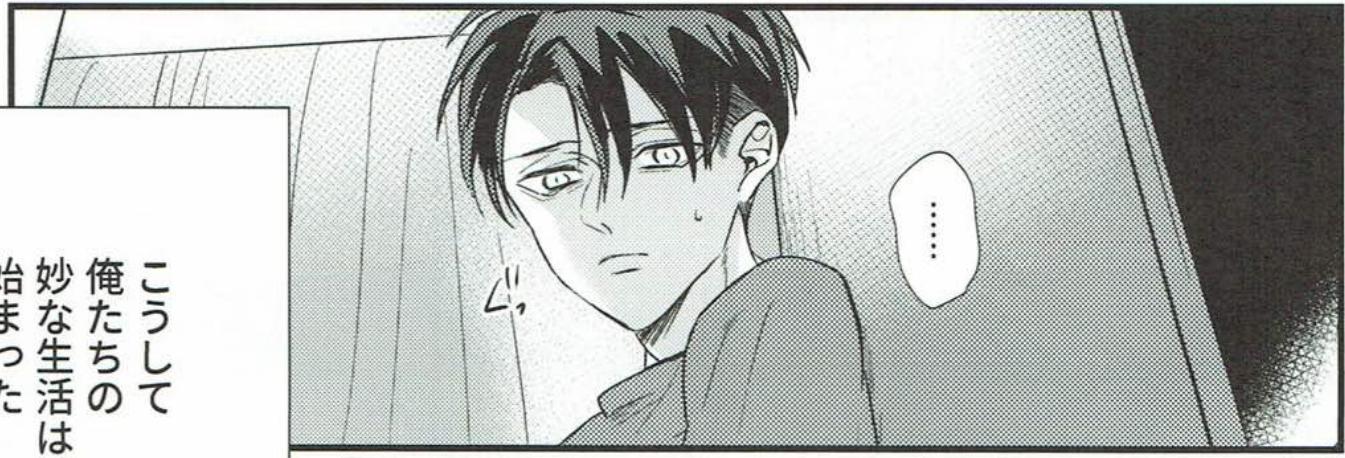


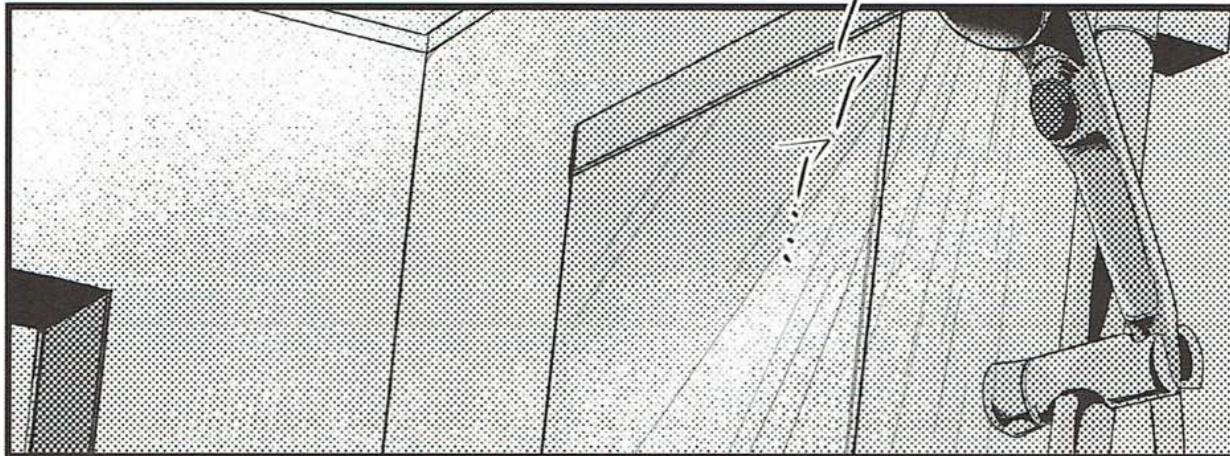


7日間を
与えられた
レンから
の要請もまたひとつ

そして

…同感だ





さっさく後悔してらる

しんどい…

生まれてこの方

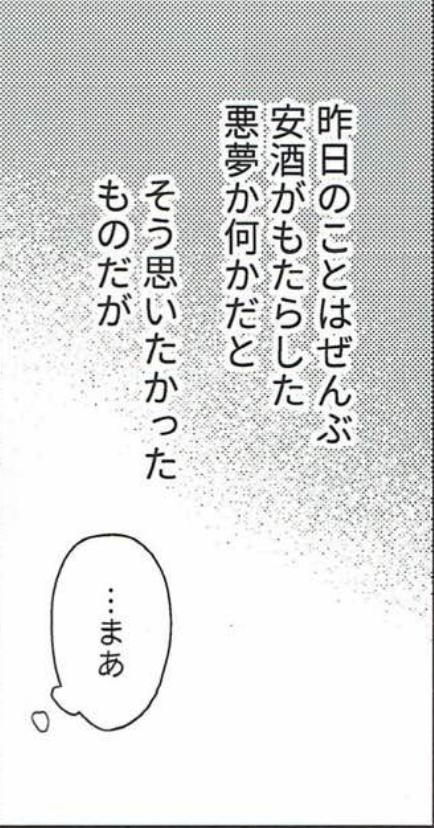
あいつに
言われなくとも

自分の選択には
責任を持つている
つもりだったが

あの契約じみた
話のあと

痛む頭に引きずられ
そのまま眠りに落ちて
しまったようだが

次に目が覚めたとき
そこにいたのは
自分ひとりで



こいつは——
本当に俺を騙して
犯した男なのか？

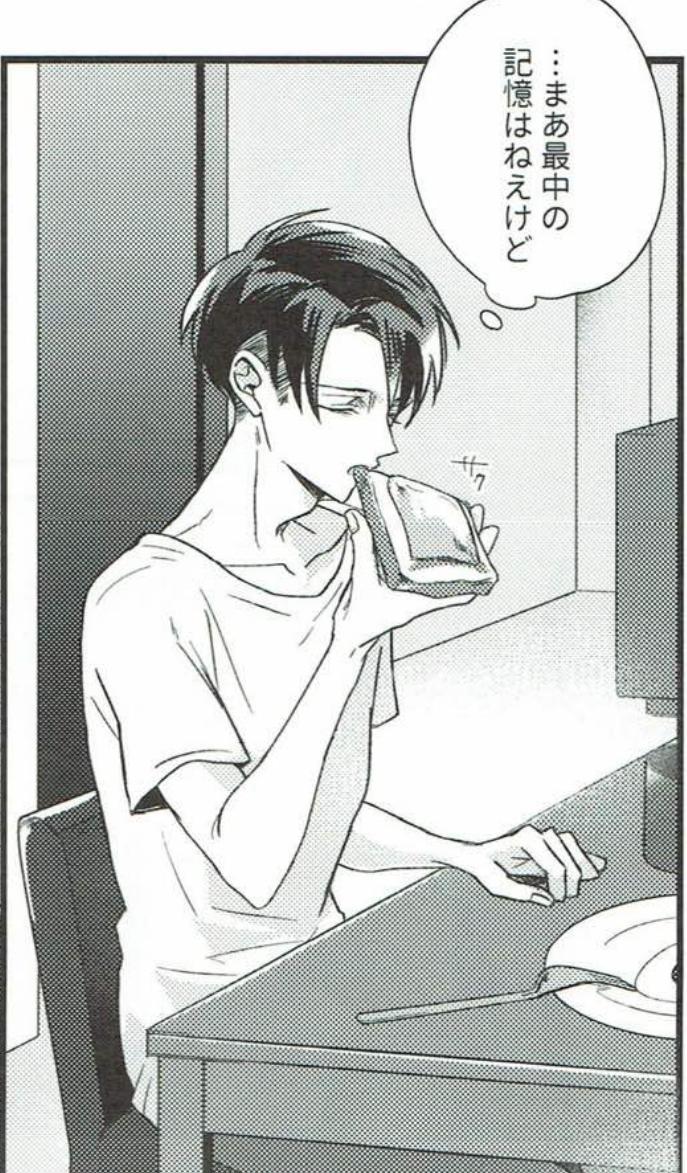


リヴィアイさん
コーヒー苦手
でした？

あや?



...まあ最中の
記憶はねえけど



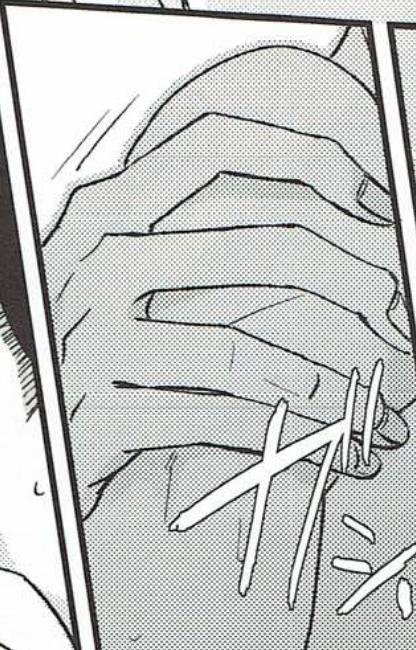
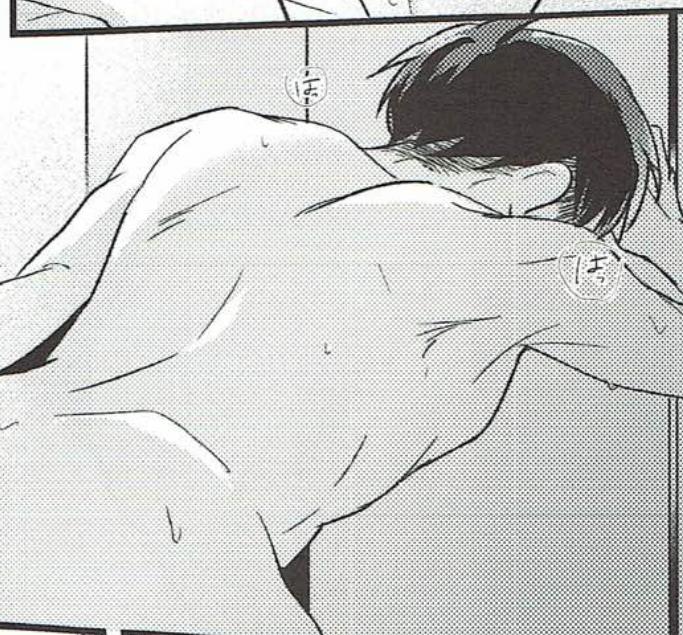


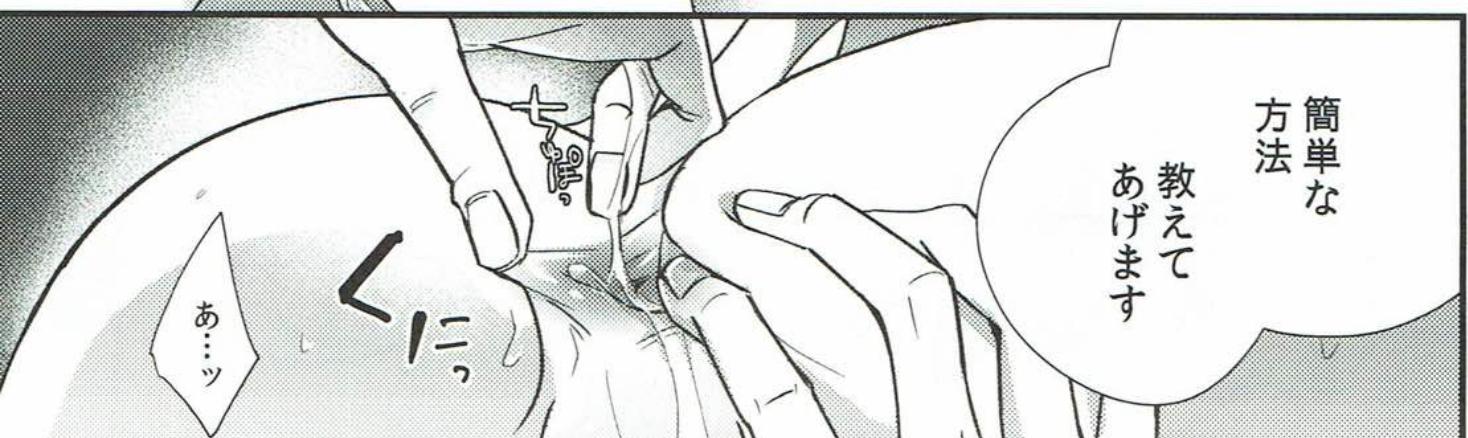
準備
必要でしょ

風呂ですよ

男だ
喰えない

きっとわざと
こんな顔を
見せている

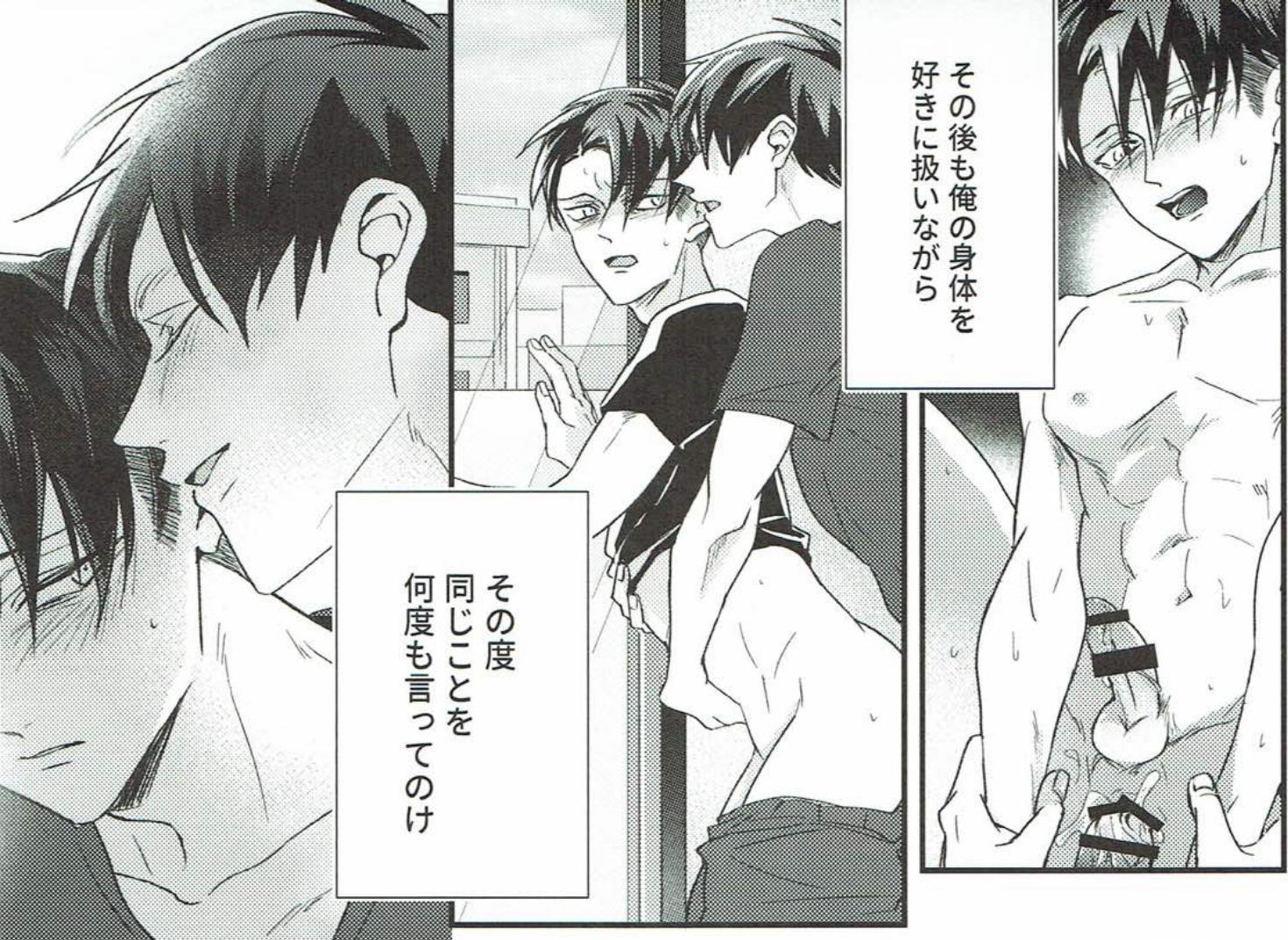


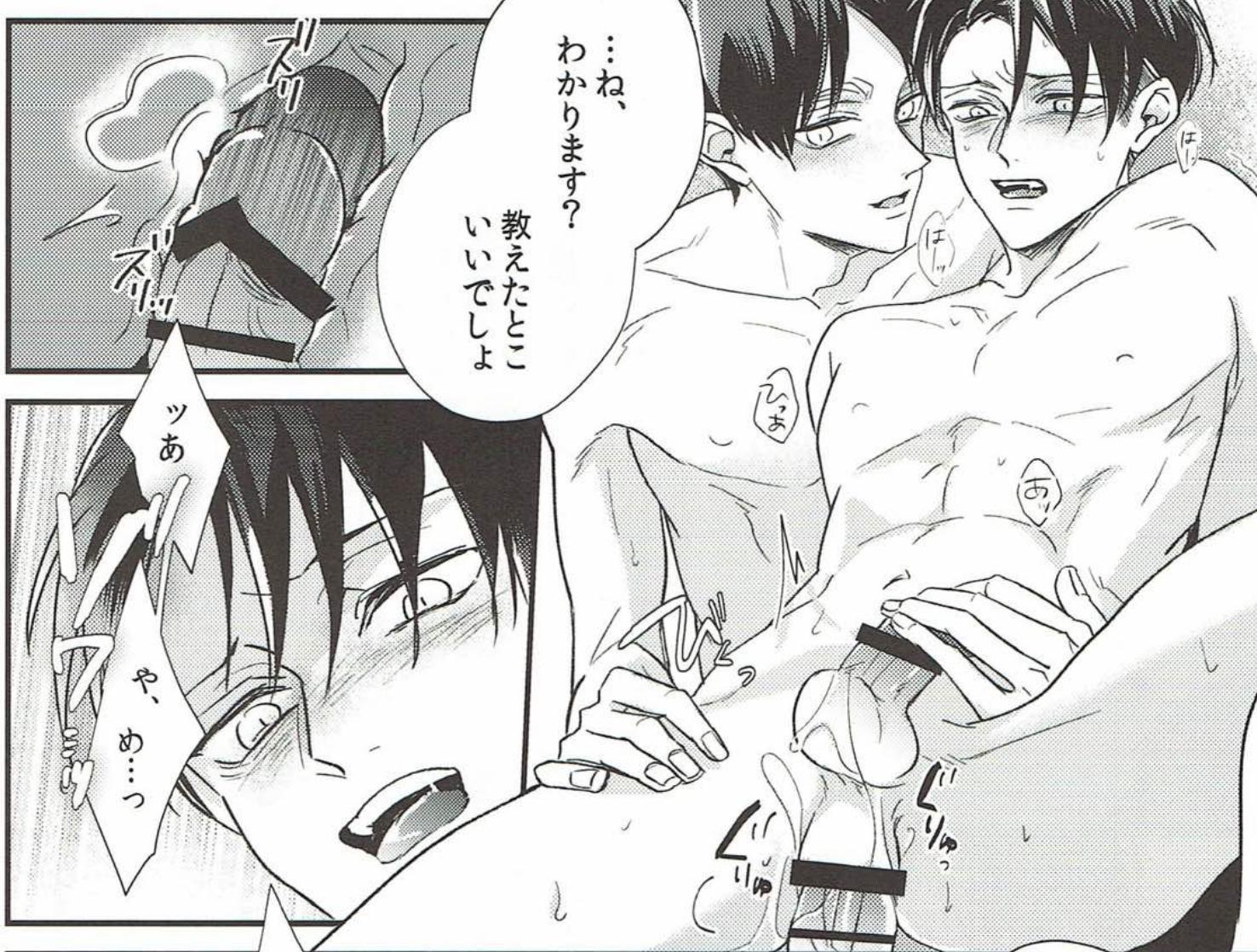












それ
よく言われる

リヴィアイさんも
もつと気持ち
よくなつて

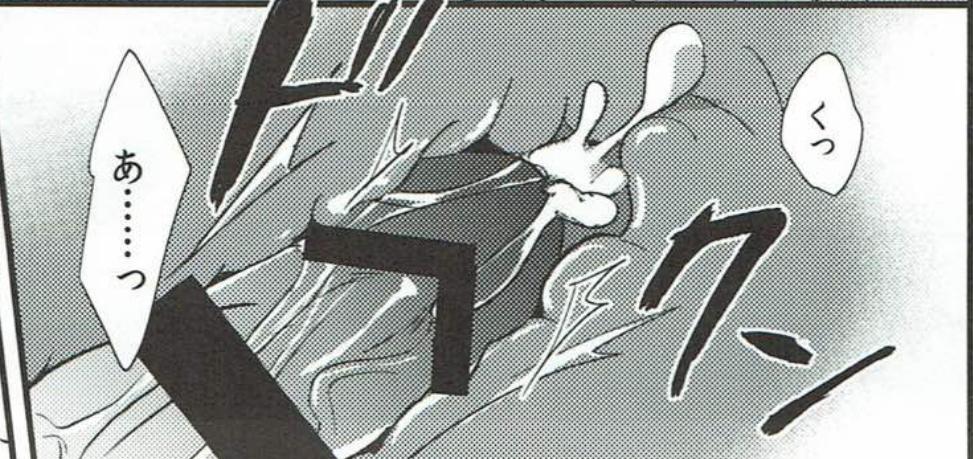
あ…ツ

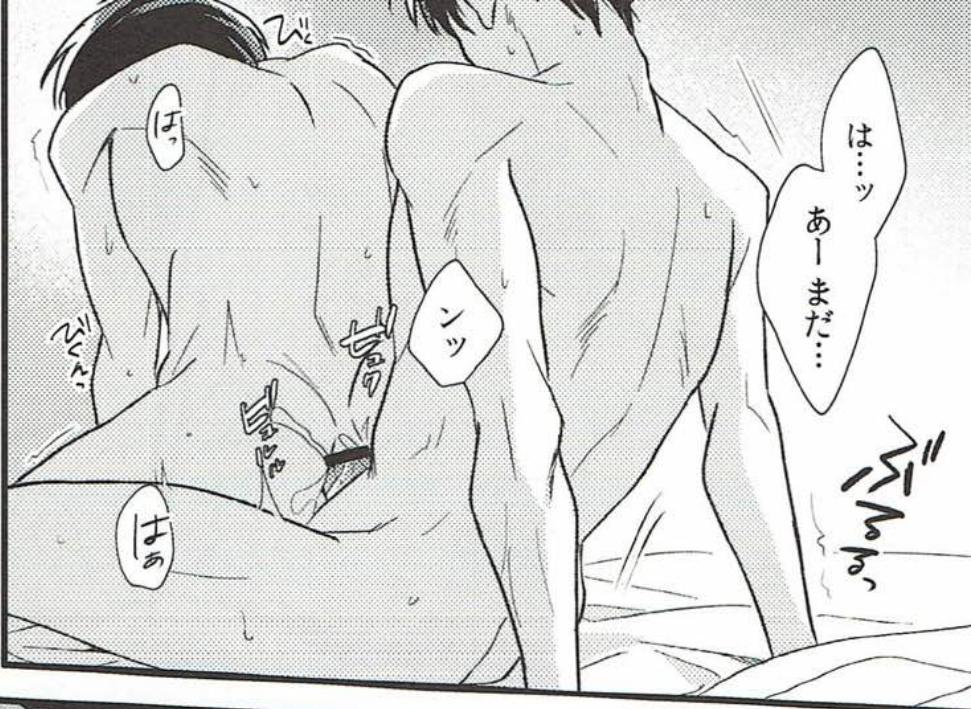
あ…ツ

でそ…ツ！

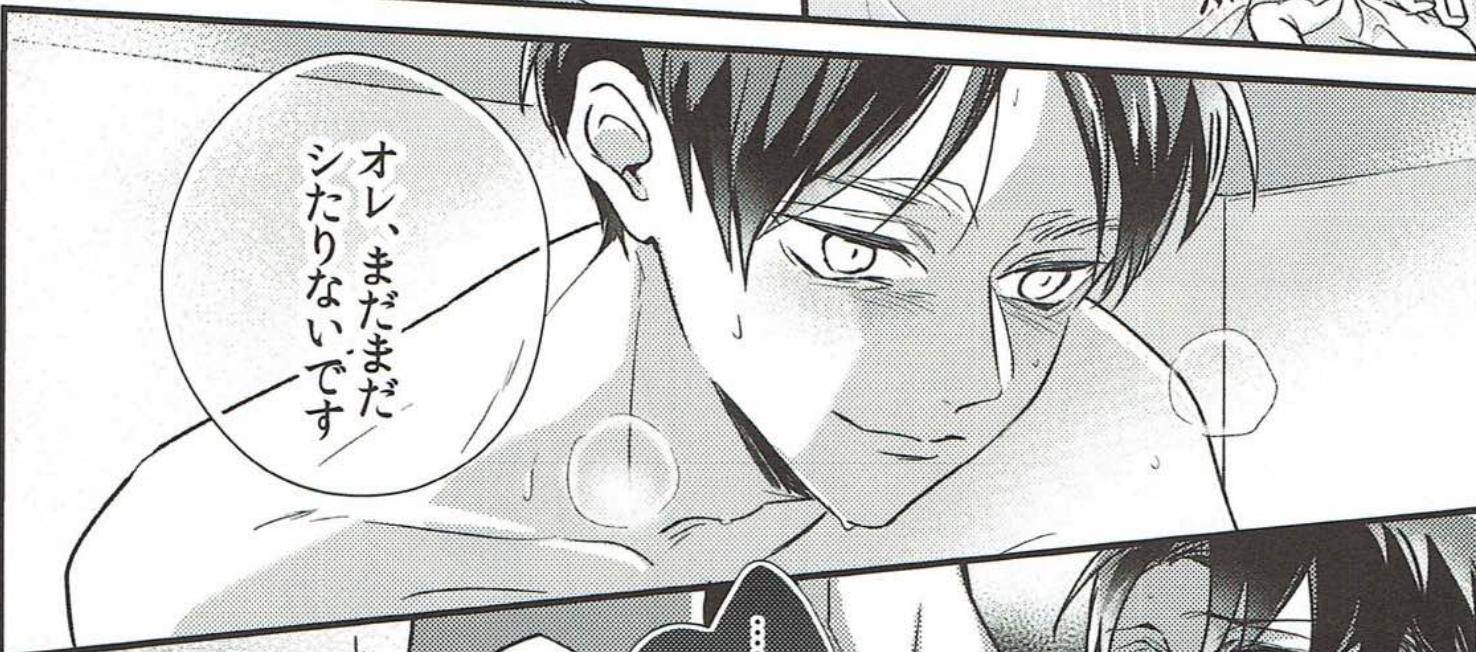
くつ

あ…ツ





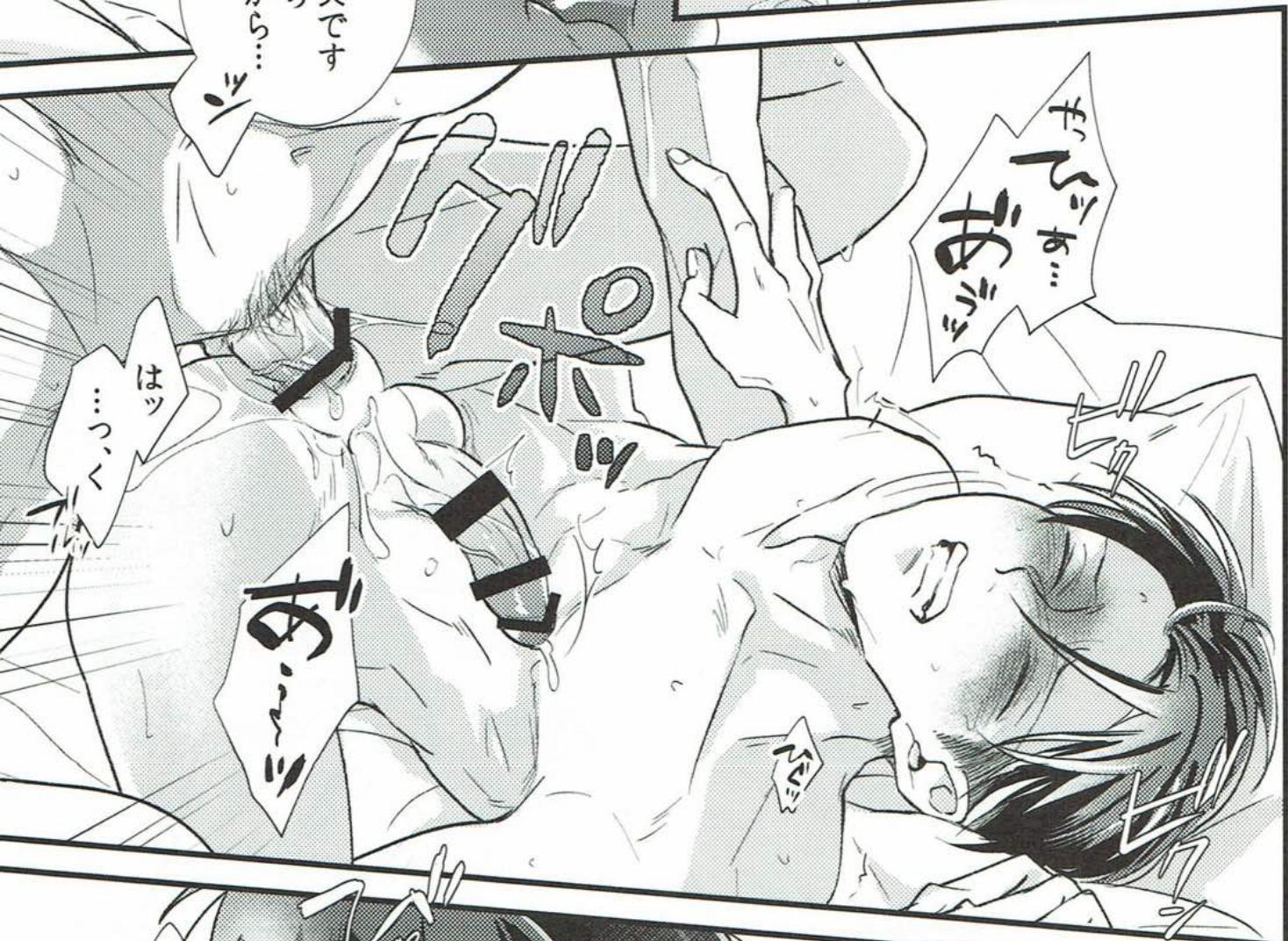
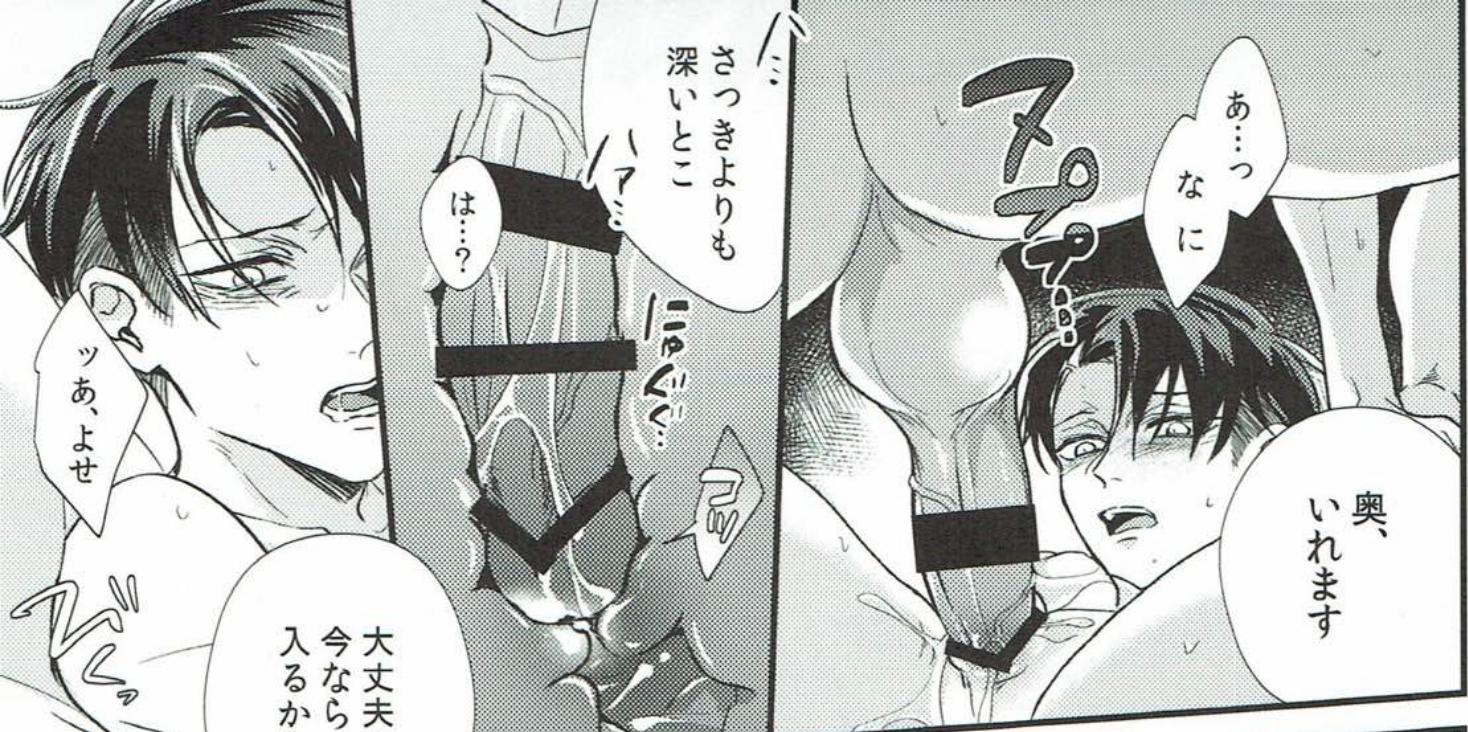


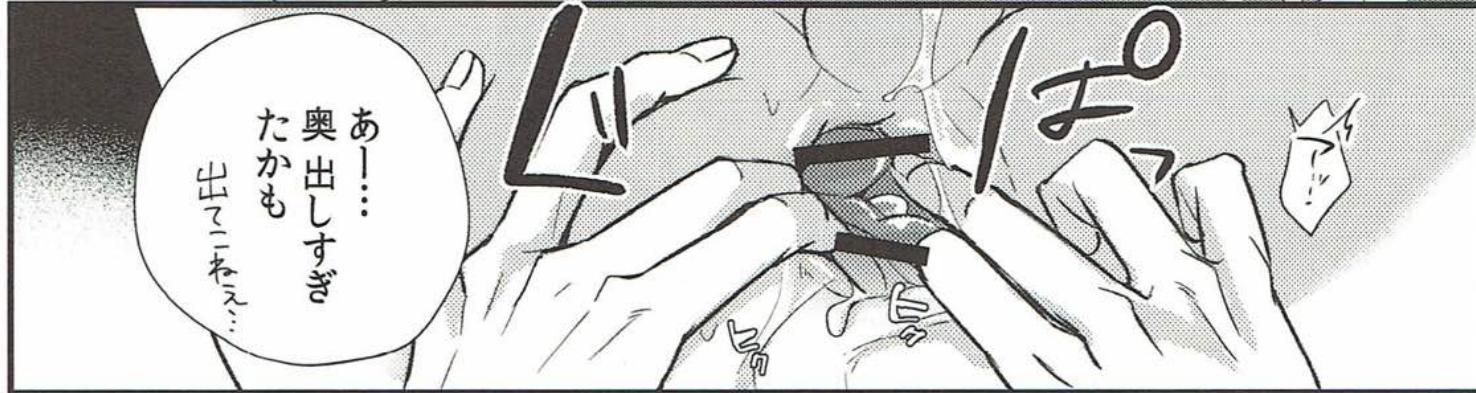




オレが
興味あるのは
あんただけ
ですか







さつき
一瞬でも
こいつのことを見——

やだなあ
さつき言つた
じやないですか

あと何日残つてると
思つてんですか
がんばつて
くださいよ

この...

かわいい奴だ
なんて
とんでもねえ

うーかお前
まだ続ける
感じや

え?

うーかお前
まだ続ける
感じや

死んじまう

7日目の犯行 part1

4日目の途中です(前頁のこたえ)

軟禁ネタですが、それにしてもゆるゆるな内容でお送りします。というのも、私が根本的に合意を得たうえでの行為が好きだからです。強引に事に運ぶことの良さもあるんですが、リヴィアイさんのような人は特に、自分で受け入れる選択をして、そのうえでエレンに好きにされるということに果てしない萌えを感じます。よってこのような内容になっていますが、この後も数日続くゆるめな軟禁生活にお付き合い頂けるとうれしいです。

7日目の犯行 / 前

AOT unofficial fanbook No.6

Eren x Levi / 2018.1.28

錯覚(かく) pixiv : 570759

skku.info@gmail.com

print : BRO'S様



【メッセージ用QR】

本書の無断転載及び二次配布・オークション等への出品は固く禁じております。

ご不要になった際は一般の方の目に触れない方法での処分をお願いします。

ここまでお読みくださりありがとうございました

ZEITの犯行 part II

attack on titan unofficial fanbook 06

R18 Eren / Levi ADULT ONLY

presented by SAKKAKU